

『当たり前のことが当たり前でできる生徒・教師の育成をめざして』

美和中学校

1 目的

(1) 指導力向上

経験年数の少ない教員のために、経験豊かで、専門的な知識をもった指導者から、指導、アドバイスをいただき、教員個々の資質向上を図ります。

(2) 豊かな人間性の育成

生徒一人一人が互いに認め合い、尊重し合い、共感し合って温かい人間関係をつくろうとする心の育成を図ります。

2 内容

(1) 指導力向上

ア 経験豊かで専門的な知識をもった長谷川修三先生（元津島市立南小学校校長）を講師に招き現職教育を行いました。（5／13）また、学級での様子を観察し、検討会を行いました。（1／16）

(2) 豊かな人間性の育成

ア 生徒が学校行事で人々に感動を与え、達成感を味わうこと、さらに教師が専門的な指導にふれることで教科指導のスキルアップをするために、照喜名純子様（照喜名一男奥様）を講師に招き、合唱指導（9／5、13）を実施しました。また、卒業式に向けての合唱指導を行いました。（2／12、26）

イ 命の大切さや尊さを知り、自分や他人を大切にしようとする心の育成を図るために、伊藤幸子先生（名古屋医専教務部主事）を講師に招き、命の授業（12／10、11）を実施しました。

ウ 互いに認め合い、尊重し合う心の育成を図るために、吉田憲司さん（中部脊髄損傷者協会会長）を講師に招き、人権講演会（11／8）を実施しました。

エ あま市内で活躍している音楽関係者を招き、ベートーヴェンの交響曲第9番第4楽章を、生徒と共に作り上げる音楽の集いを行いました。（12／12）



3 評価

(1) 指導力向上

ア 教職経験年数が少なく、子どもたちへの指導の困難さを感じている職員に対して、長谷川修三先生から個々にアドバイスをいただきました。そのアドバイスから、悩みや不安を解消する、足掛かりをいただきました。また、授業の様子を観察してもらい、その後の検討会から、教師たちと率直な意見交換ができ、職員の意欲を高めることができました。

(2) 豊かな人間性の育成

ア 『合唱指導』

照喜名純子先生の指導はたいへん熱心で、少しでも子ども達の良さを引き出そうと一生懸命に指

導をしていただきました。合唱指導を受けた生徒達は、学校祭の合唱で、調和のとれた歌声を披露し、聴く人に感動を与えることができました。特に、毎年の積み上げが3年生の素晴らしい合唱となって成果が上がっています。自信をもって歌う姿から、少しずつではありますが、合唱を通して自己肯定感を高めることができていると感じています。

イ 『命の授業』

「命の授業」は、毎年1年生を対象として行っています。伊藤先生の指導は大変丁寧でわかりやすく、子どもたちに命の大切さや生命誕生のすばらしさを教えてくれます。また、助手として多くの学生を連れて指導に当たっていただいています。生徒の感想では、「生まれてきたことは奇跡で、すごいことなんだと改めて思いました。」「今回の授業で自分の特別さを気付けた気がしました。」など、命を大切にしようとする声が聞かれました。また、自分や他人を大切にする気持ちを育てることができたようです。

ウ 『人権講演会』

『変えられないもの 変わらないもの』という演題で、中部脊髄損傷者協会会長で、自転車での不慮の事故で下半身不随となった、吉田憲司さんに人権講演をしていただきました。障害者と健常者で認めあうことの大切さを全校生徒に問い、講義だけでなく、クイズ形式の質問をするなど、生徒と一体となった講演会となりました。



エ 『音楽の集い』

あま市美和文化会館の大ホールに、全校生徒、市民合唱団、オーケストラ、ソリスト4名が一斉に集い、「音楽の集い」を行いました。最初にベートーヴェンの交響曲第9番第4楽章を聴き、その後、各学年がオーケストラの伴奏で学年合唱を行いました。市民合唱団の中には、生徒、職員も参加をしました。「来年は舞台上で一緒に歌いたい」という生徒の声も多くあがりました。また、ソリストの女性2名は、美和中学校の卒業生であり、在校生にメッセージもいただきました。本物を体験できた貴重でかけがえのない集いになりました。

課題

保護者や生徒、地域からの信頼を得るためには、教育活動のさらなる向上や発展を目指さなければなりません。特色ある学校づくり推進事業により、生徒はさまざまな取組を通して体験から学ぶ機会が増えました。今後は、学んだことを活用する場や学びを通して、自己の成長が実感できる振り返りの場などを工夫し、さらに生徒の自己肯定感を高め、主体性を伸ばしていくことが課題と考えます。

次年度以降も引き続き、「当たり前のことが当たり前のできる生徒・教師」をキーワードに、全職員が力を合わせ質の高い教育活動を展開していきたいと考えています。